

■ 第12回岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山県の研究開発拠点である「岡山リサーチパーク」で、関係大学、研究機関、企業等の研究成果を広く発表する場として、「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」が開催されます。
この発表会は、①精密加工・機械・材料、②環境・化学・デザイン③健康・医用・福祉④情報通信・エレクトロニクス⑤バイオ・食品、⑥知的財産権・MOTの分野において、パネル発表により発表者と参加者の交流を深め、研究・技術・商品開発などの産学官連携の推進を目指したものです。また、発表に併せて、特別講演会、交流会も開催されますので、ニーズ・シーズマッチングや出会い・ビジネスチャンスの場として是非活用願います。

開催日時：平成20年2月1日(金) 10:00～18:30

場 所：テクノサポート岡山(岡山市芳賀5301)

主 催：岡山リサーチパーク研究・展示発表会実行委員会

(構成：岡山県、岡山県工業技術センター、(財)岡山県産業振興財団、岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、岡山リサーチパークインキュベーションセンター)

プログラム：■10:00～10:30 オープニング

■10:45～15:00 展示発表セッション

■15:15～16:45 特別講演会

「夢の糖質・トレハロースの工業生産とその用途開発」

(株)林原生物化学研究所 常務取締役 福田恵温 氏

■16:45～16:55 表彰式

■17:00～18:30 交流会

新入居者紹介

平成19年12月に第20回入居審査会が開催され厳正なる審査の結果下記1社が新たに入居しました。またベンチャービジネスプランコンテストで最優秀賞受賞した竹宮氏も入居しました。

入居内定企業名 代表者	事業概要	所在地	分野
E&Dテクノデザイン(株) (設立準備中) 代表取締役 竹宮 宏和	2007年度岡山県ベンチャービジネスプランコンテスト最優秀賞受賞。 防震、耐震用複合体「WIB工法」の開発、製造。	岡山市	ものづくり
(株)クレオファーガ 代表取締役 西尾周一郎	Web上でのコンテストを活用した広告&コンテンツメディアサービス	岡山市	IT

入居希望者募集中！！

センターでは随時入居のご相談に応じています。お気軽にお問合せください。

■ 施設使用料・空き室状況

施設区分	面積	使用料の月額	部屋数	空き室数
研究室小	約25㎡	45,000円	22	4
研究室大	約50㎡	88,000円	30	8
試作開発室	約100㎡	175,000円	6	2
創業準備室	5㎡/ 1ブース	5,000円	6ブース	3ブース

■ 次回募集

原則として3ヶ月ごとに入居審査会を開催しています。次回は2月末までに事業計画書を提出された方を対象に、3月中に開催の予定です。
※創業準備室の募集は随時受付けています。

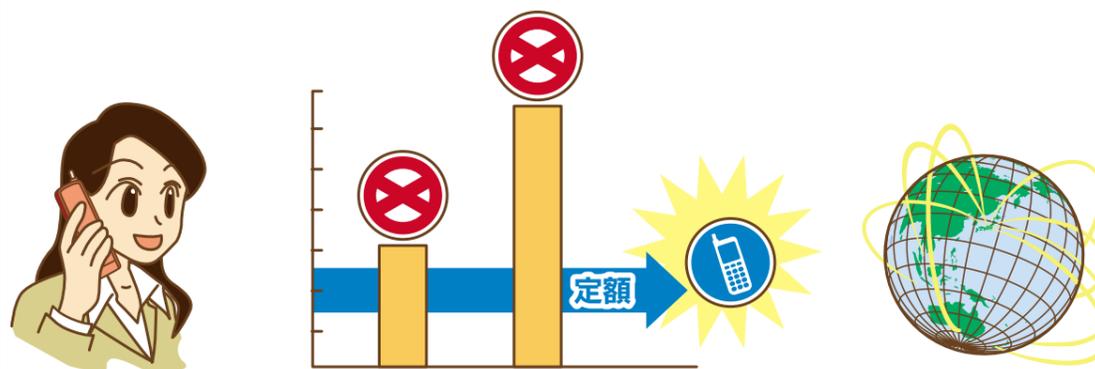
創業5年未満の会社は入居後3年間は
1/2に減免する制度があります。



ORIC NEWS 翔飛 ひしよう

入居企業紹介

携帯からの国際電話が 定額！



特長：

国内料金なみで日本から世界へ
現地料金なみで世界から日本へ
クリアな音質で格安！

その他各種商品あり

車載可能なIP電話、移動しながら使えるIP電話
工事不要、電源オンですぐに話せるIP電話
詳細はぜひHPで確認してください。

株式会社VOIPACKJAPAN
http://www.voipack.net

詳細は7ページをご覧ください

- 本号の主な内容 -

- 巻頭言
- 研修・交流会活動
- 入居者の活動・トピックス
- 入居企業紹介
- イベント案内
- 新入居者紹介

快適生活県おかやまの実現を目指して

岡山県知事 石井 正弘



新年あけましておめでとうございます。

県政の基本目標である「快適生活県おかやま」の実現に向けて、昨年は、「新おかやま夢づくりプラン」をスタートさせ、自立と協働を基調とした県政を推進してまいりました。2年目となる今年は、重点的な政策として、「子どもを健やかに生み育てる環境づくりと将来を担う人づくり」「子どもや高齢者などが安全で安心して暮らせる地域社会づくり」「海外を視野に入れた産業の振興と交流の推進」を強力に進めてまいります。

とりわけ、将来の少子高齢化社会を迎えるに当たり必要な地域経済基盤を確かなものにするためには、企業誘致など外発型産業振興に併せて、県内企業の活性化、そして将来有望なベンチャー企業の育成、輩出などの地域資源を生かした内発型産業振興が車の両輪となって岡山県産業をけん引していく必要があります。

こうした中、県内ベンチャー育成の中核拠点である岡山リサーチパークインキュベーションセンター（ORIC）は、昨年、日本新事業支援機関協議会主催の「JANBO Awards」において「新事業創出機関賞」を受賞されました。同時に、松尾彰センター長をはじめ、岡山県産業振興財団の皆様と岡山県工業技術センター職員が「新事業創出支援賞」を、入居企業である（株）日本ステントテクノロ

ジー 山下修蔵代表取締役社長が「新事業創出賞」を受賞されました。ORICの受賞は、PFI事業として民間のノウハウや柔軟な対応を生かした運営と、公的施設として産業振興財団や工業技術センターと連携した一体的な取り組み、そして短期間で将来性の高い企業を発掘していることが評価されたものです。このように、開設4年目で全国のビジネス・インキュベーターの中でも優秀な評価を受け、ほかの模範となる受賞をされたことは大変喜ばしいことと存じます。

さらに、ORICの入居者の中には、海外企業との提携により業務が順調に進展しているベンチャー企業や、高度な技術力や将来性により注目を集める企業などが次々と育ってきており、今後世界に向けて大きく羽ばたいていくことを期待しているところでございます。

折しも、今年、岡山空港、瀬戸大橋という、岡山の発展を支えてきた二つの大きな社会基盤が20周年という節目の年を迎えます。

さらなる岡山の発展に向けて、夢と希望にあふれ、中四国の拠点として輝くおかやまづくりに、全力を尽くしてまいります。引き続き、皆様の力強い御支援と御協力をお願いいたしますとともに、御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

■ 平成19年10月度ORIC交流会及びセミナー

● ゲスト機関紹介

『中小企業に役立つ中小機構の支援メニューについて』
 (独)中小企業基盤整備機構(中小機構) 中国支部 岡山オフィス

岡山オフィス所長の高橋正己氏より、「中小企業に役立つ中小機構の支援メニューについて」と題して、中小機構の5つの主要な業務のご説明がありました。その5業務のうち、「創業・新事業展開の促進」では、経営相談、専門家派遣、新連携対策、販路開拓コーディネート事業等について詳細に説明されました。また、「賃貸型事業場・産業用地の提供」としてリサーチパークにある「テクノフロンティア

ア岡山」や、今年オープンする「岡山大学インキュベーションセンター」の紹介や「経営基盤の強化」、「経営環境変化への対応」、「施策情報の提供」等の事業について紹介されました。最後に、「経営支援アドバイザーによる無料相談窓口をご利用下さい」と強調されました。



● ゲスト企業紹介

『世界初!四軸織機の実用化を実現—スポーツ用品から宇宙開発の素材まで、織れないものはありません—』
 明大(株)



代表取締役小河原通弘氏からこれまで経験された経営と技術についてお話を頂きました。同社は、通常タテ糸とヨコ糸から構成される二軸織物に、斜め方向にも同時に糸を配置させながら織り上げるという世界初の四軸織物を完成させました。四軸織物はねじれや引裂き強度に強い特長を有し、今ではゴルフクラブシャフトやスピーカー振動板に採用され、航空宇宙や自動車業界などあらゆる分野で注目を集めています。「この四軸織物開発に先立ち、同社の主力製品で数トンから数十トンの重量物を吊り下げるロックスリングを開発したものの営業に苦勞して10年目に独り立ちできたこと。この間ライバル会社のネガティブキャンペーンに遭ったが却って同社の商品性能が認められて売れ出したこと。そこで、決して他社を誹謗中傷してはいけないという教訓を得たこと」などを語られました。また、「技術開発には常に問題意識を持つこと」や「経営者には何でも相談できる人が必要であり、自分の場合はそれが妻である」などご体験に基づく示唆に富むお話でした。

● ORICセミナー

『知っておきたい労務管理の基礎』

(独)雇用・能力開発機構岡山センターとの共催により、頭書のテーマでトーマツコンサルティング(株)岡山営業所の社会保険労務士岡田明彦氏に、労働法規に関わる重要な点を、分かり易くご紹介いただきました。はじめに、「労務管理チェックシート」を用いて参加企業各社の労働時間、時間外労働、休日労働、割増賃金、年次有給休暇、退職、就業規則等労務管理の自己チェックによる現状確認を行って貰いました。

セミナーでは、賃金不払い労働による企業の労務管理リスクを話の導入部として、「1日8時間、週40時間がベース」、「平成20年4月にパート労働法が施行されるので十分留意すること」、「36協定は毎年提出すること」「労働条件は通知書で必ず明示

すること」など労働時間管理、正社員と非正社員について、労働条件の明示と労働時間の考え方など、労働法の基礎知識を学びました。さらに労働トラブルの近年の事例から、「黙示の残業命令」、「長時間労働による健康障害」等について具体的に問題点を指摘されました。まとめとして、「労働トラブルを避けるには、労使のコミュニケーションが大切。部下から上司への『報告・連絡・相談』は良く知られているが、労務管理に関しては、安全配慮義務の観点からも管理職から部下への『命令・解決・援助』が不可欠」と解説頂きました。



●入居企業紹介

『免疫関連マーカーを利用した免疫判定システムの開発と
免疫機能向上に寄与する機能性食品素材の開発・評価』
免疫分析研究センター(株)



12月入居の同社取締役執行役員立藤智基氏から事業テーマとして①免疫能評価を主としたヒト臨床試験受託システムの開発と受託業務②免疫関連バイオマーカーによる免疫能判定システムの開発③免疫能に関わる機能性食品素材の研究開発の三点に取り組むこと、実施に際しては鳥取大学発ベンチャー企業、医療機関、親会社である山田養蜂場の研究所などとも連携していくことが紹介されました。そして『「健康維持は予防から!」のキャッチフレーズの下『免疫力維持・向上による疾病予防』、『全ての人間に備わっている免疫』に特化した研究・開発を推し進め、一人ひとりに応じた健康状態の評価・診断支援を考えている』と結ばれました。

●ゲスト企業紹介

『トマト銀行融資制度のご紹介』
トマト銀行 津高支店

トマト銀行津高支店長太田了氏から県および同行の融資制度についてご説明頂きました。まず、県内中小、ベンチャー企業を対象とした創業支援資金の全体像についてその資金名、融資条件など詳細な解説があった後、同行独自のORIC入居企業のための特別融資制度である「ORIC入居企業特別ローン」についてお話がありました。融資金額は原則5百万円以内で融資期間は5年以内、金利は短期プライム連動型であり無担保、第三者保証なしというのが特徴です。所有不動産など担保の少ないベンチャー企業にとって活用しやすい制度となっているとのことでした。また、借入れの際に必要な事業計画書などの資料も配布されました。



●H19年度第2回OIAセミナー

『わかりやすい知的財産権』

おかやまインキュベータ協議会主催により弁理士の笠原英俊氏から標記のテーマで知的財産権の基本について解説頂き、その後個別相談会が実施されました。「知的財産権とは人間の知的創造活動の成果であり財産的価値を有する情報」、「知的財産権の種類には、創作意欲を促進する『知的創造物についての権利』—特許権、実用新案権、意匠権、著作権などと、信用維持のための『営業標識についての権利』—商標権などの2種類に区分されるが、前者は期限があり、後者は更新することにより無期限となるところが大きく違う点」との定義から始まり、これまでの相談経験から、「一つのもので色々な権利がある。どこのどういう部分でどういう権利を取得するのか十分検討して欲しい」また「他人の財



産権をよく調査しないと権利侵害となるケースがある」、「特許を取得する意味をよく考えて欲しい。即ち、権利はできるが開示しなければならず、費用がかかるというデメリットもあることから、場合によっては秘密にしておいたほうが良い場合もある」ことなど留意点を事例を交えて分かり易く説明されました。個別相談では、事前に申し込んでいた5社が相談を行いました。

●ORICセミナー

勝ち残るための経営戦略セミナー「価格戦略とマーケティング」



去る12月21日ORIC交流サロンにて秋山戦略研究所代表秋山尚久氏による「価格戦略とマーケティング」をテーマにセミナーを開催しました((独)中小企業基盤整備機構中国支部共催)。秋山氏はかつて大手電器メーカーにおいて営業統括部長を歴任、在職中にマーケティング及び販売戦略を研究、全国各地で実践を重ねた中から独自のマーケティング戦略を構築された実績をお持ちです。①「売れる商品」と「売れない商品」とはどこが違うのか?—その要素は「価格、新規性、技術、信用、ブランド、アフター、特許、ノウハウ、色、デザインなどがある」②良い商品が売れるとは限らないのは何故か?—「商品の価値とその価格を比べて安い(値頃感)と判断されるのかどうかで決まる」③商品開発にはマーケティングが欠かせないのは何故か?—「社長の趣味で開発されていないか、プロダクトアウトの発想が強すぎないか、ニーズを掴んでいるか、周りの褒め言葉に酔っていないか、マーケティングを知っているのか」など秋山代表がこれまで経験してきた数多くの事例を挙げて売れるための価格設定には何が重要なのかについて解説された。講演後の質疑応答も活発に行われて「価格をどう決めたら良いか、多くの事例に学ぶ事ができて大変参考になった。今後活かしたい」と好評でした。

●入居企業紹介

『産学・医工連携による細胞培養システムの構築』
バイオシステムメディカルテクノロジー(株)

代表取締役小山尹誉氏から会社紹介がありました。同社は再生医療につながる大量の細胞培養を自動で、かつ高度なスキル不要に達成する細胞培養システムを開発しています。また、この細胞培養システムの応用として、人工臓器の開発も視野に入っています。この開発には岡山大学や(株)クラレメディカルの開発した技術が基礎になっています。同社の経営者の小山氏は、横浜に本社を置くメディカルサイエンス社を30年近く経営しており、

血液浄化療法関連製品販売の実績を有しています。このほど、新規製品の開発事業を行うにあたり、同社を設立されました。当初、メディカル社で実績のある中国市場での製品承認、販売の立ち上げを想定しています。



●ゲスト企業紹介

『近未来のケータイ』
(株)NTTドコモ中国 ビジネス営業本部ビジネス企画部



同社担当部長の山口雅明氏から携帯電話の現状と今後についてご紹介がありました。「わが国は、昨年からIT新改革戦略として『u-Japanの大目標』を掲げ、世界のIT革命を先進するフロントランナーを目指している」、「その実現に向けて携帯電話(の技術)活用が近道であり、既に、カードと携帯電話を融合したFeliCaも登場しており、また将来には、携帯でICタグ(電子荷札)情報を読み取りが出来るようになるなど更にユビキタス社会に近づく」と、近未来のケータイについてDVD映像も駆使してご説明頂きました。

● 第2回フォーカスセミナー

「銀行から借り入れるときの基礎知識」

去る12月11日中国銀行津高支店長松下浩明氏を講師にお招きして入居企業を対象としたフォーカスセミナー「銀行から借り入れるときの基礎知識」を開催しました。銀行から借入れるとき経営者として「何を準備してどのように説明したらよいか」、「銀行からみて信頼のおける企業経営者はどのようなパフォーマンスをとるのか」という基本のお話から「明日の資金繰りに窮しているのでは何とか融資してほしい」と駆け込まれた事例があるが、早めの相談

が必要であり、かかる事例は経営者の質を問われる、「銀行側から見て信頼のおける社長は決算報告についてもきちんとして説明を頂く」など銀行から見た企業経営者の在り方などについて貴重なお話でした。



入居者の活動・トピックス

■ チュニジア共和国インキュベーション施設関係者の研修



去る9月11日にチュニジア共和国産業振興公社のディレクターやインキュベーションマネージャー等インキュベーション施設 (BI) 関係者一行12名が研修のためORICに来所された。この研修は (独) 国際協力機構 (JICA) が招き、日本立地センターがBIの運営やインキュベーションマネージャーの支援・支援プログラムなどの研修を実施したもので、事例研究の一つとしてORICでの研修となったものです。運営・支援について活発な質疑が行われました。

■ ベンチャープラザ岡山2007

去る11月13日コンベックス岡山で頭書の展示会が開催され、約90社の企業が出展しました。ORICからは(有)アイ・エス・ティ、アナハイムエンジニアリング(株)、(株)内外総合通信社の3社が出展し活発な商談を行いました。同時に催されたベンチャー・ビジネスプランコンテストではORIC創業準備室に入居中の岡山大学教授竹宮宏和氏が「防振および耐震用『複合体WIB工法』の開発と製造・販売」というテーマで最優秀賞を獲得、同準備室の岡山大学学生西尾周一郎氏が「Web上でのコンテンツを活用した広告&コンテンツメディアサービス」で審査員特別賞を受賞しました。最優秀賞の竹宮氏には賞金200万円とORICに3年間無料で入居できる特典が授与されました。



■ インキュベーションフォーラム2007



施設の入居企業のビジネスマッチングの場として、入居企業や施設による製品紹介や施設自体の紹介が目的です。

去る11月28～30日に東京ビッグサイト、頭書のフォーラムが開催されました。この展示会は、全国のインキュベーション

ORICでは入居企業の製品を現物、パネルやパンフレットで紹介し、多くの来訪者からの問い合わせにスタッフが対応致しました。同時開催のクラスタージャパンには(株)光フィジクス研究所が、パテントソリューションフェアにはアナハイムエンジニアリング(株)が出展しました。



■ 岡山・香川ベンチャーブリッジ研修会・交流会

去る12月3日岡山県と香川県のベンチャー企業支援を目的とした第5回目の標記研修会・交流会が岡山市内で開催されて約80名が参加しました。基調講演後、両県の企業が各2社ずつプレゼンテーションを行い、ORICからグーズグー(株)代表取締役岡田誠氏が販路拡大のパートナーを求め「モバイルメールタウン—携帯電話を活用して地域の小売店と消費者を結ぶ新広告サービス」のプレゼンテーションを行いました。熱心な質問のあと、商談が進んでいました。



■ ベンチャーマーケット岡山



去る12月4日に平成19年度第2回ベンチャーマーケット岡山が開催されました。この会は岡山県内外のベンチャー企業・中小企業等が金融機関・ベンチャーキャピタル・商社等に対してプレゼンテーションを行うことにより資金調達や販路開拓の機会を求める出会いの場として、県内金融機関を中心とするベンチャーマーケット岡山運営協議会(事務局:(財)岡山県産業振興財団)が開催しています。今回の発表6社のうち、ORICから(株)内外総合通信社と創業準備室入居中の岡山大学学生の企業(株)クレオファグの2社が発表してマッチングを図りました。

入居企業紹介

株式会社VOIPACK JAPAN



代表者 稲葉 多吉
連絡先 岡山市芳賀5303 ORIC217号室
TEL 086-286-9817 FAX 086-286-9818
URL <http://www.voipack.net/>
E-mail info@voipack.net

事業内容

- IP電話システムの開発
- 国際電話サービスの提供

事業の背景

技術の進化、時代の変化に伴い、最新の技術を駆使し携帯電話の便利さとIPの格安さを融合するサービスをお客様に提供して参りました。クリアな音質で格安な料金を特徴とし、2004年創業以来、2007年まで利用企業社数は約700社まで増やし、順調に伸びています。

最近の商品サービス

ホットライン(1対1)キャンペーン 携帯電話からの国際通話が日本一安い

このキャンペーンはソフトバンク社のホワイトサービス機能を国際通話にまで拡大し、格安の料金で国際通話をご提供するサービスです。例えば、携帯から中国全土への通話料金はわず

か15円/分です。

サービスの内容:まず、お客様が事前によくかける国際電話番号を登録していただきます。次に、弊社で事前に登録して頂いた電話番号にリンクするソフトバンク社携帯電話番号をお客様にご案内致します。後は、お客様が自分の携帯電話から、弊社が提供した番号をプッシュするだけで、ご指定先の番号と通話ができます。(相手が話中の場合は例外です。)

全てデジタル回線のため、品質は一流、クリアな音質を実際にお確かめください。

詳細なサービス内容につきましては、ホームページをご覧ください。

<http://www.voipack.net/>

ご利用料金:弊社の調査では2007年11月までで携帯からの国際通話は、利用料金が3,000円/月で弊社のホットラインが一番安価です。例えば中国向けだと300分通話できます。

お問い合わせ

電話: 086-286-9817

(営業時間は午前10:00から午後17:00まで)

メール: hotline@voipack.net

お気軽にお問い合わせ下さい。